発問・課題設定をキーに見る

主体的・対話的で深い学び

授業実践

世界史

「少しだけ背伸びをさせる」問いで、生徒が自己肯定感を得られる授業を目指す

石川県立加賀高校　前田鷹図（たかと）

8:50 本時のテーマの説明と前時の復習

前田先生はまず、中学校で既に学習した第一次世界大戦の要因となった欧州の対立構造について、その原因を考えることが本時のテーマであると伝えた。その後、生徒はワークシートのチャレンジ①に取り組み、帝国主義や欧州列強諸国など、前時までの既習事項を復習した。

本時のキー課題

9:17 国際関係を図示

「まず、それぞれの国の場所はどこかな？」という前田先生の言葉を受け、生徒は国のカードを地図上に並べ始めた。国同士の関係性が分からず考え込むグループに、前田先生は、「ドイツに住む民族は？」「ドイツとフランスは、なぜ対立していたのかな？」などと、ヒントになる問いを投げかけた。

本時の概要

［対象／教科／科目］1年生／地理歴史／世界史A　［分野・単元］帝国主義と第一次世界大戦（本時は、全7時間のうちの2時間目。P.51に指導計画を掲載）

［育成を目指す資質・能力］知識、技能、思考力、表現力、主体性、協働性

［学習内容］前田先生作成のワークシートの課題に取り組んだ。チャレンジ①は、既習事項の復習に個人で取り組み、チャレンジ②は、欧州列強諸国の国際関係を整理する課題に個人で取り組んだ上で、その内容をグループで共有。チャレンジ③では、国際関係を地図上に図示する課題に、グループで取り組んだ。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

まえだ・たかと　教職歴11年。同校に赴任して5年目。進路指導課。地理歴史科。前任は中学校の社会科の教師。先進校の事例などから学ぶ、主体的・対話的で深い学びの研修を通じて、研鑽を積む。

学校概要

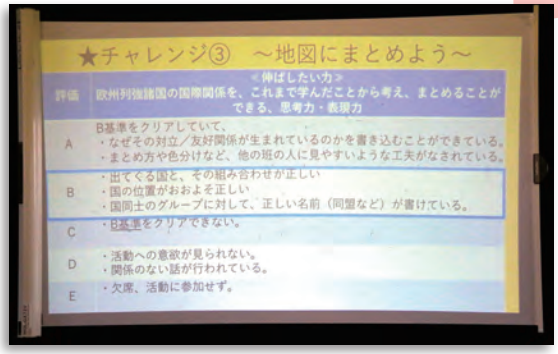
◎2000年度、普通科から総合学科に改編。南加賀地区唯一の総合学科高校となる。3年間を見通したきめ細かなキャリア教育を行い、生徒の進路実現を支援。基礎学力の充実のため、1年次は独自の学び直し教材「加賀ベーシック」に取り組む。2年次に興味・関心や希望進路に応じて、進学（人文・理数）系列、生活・福祉系列、ビジネス系列の3系列から履修科目を選択する。

◎設立　1973（昭和48）年
◎形態　全日制／総合学科／共学
◎生徒数　1学年54人、2学年55人、3学年45人
◎2021年度進路実績　卒業生26人中、短大・専門学校進学8人、就職15人。

9:00 列強諸国の関係を整理 2

既習事項を活用し、欧州列強諸国の友好・対立関係を整理するチャレンジ②に取り組んだ。個人で取り組んだ上で、その内容を４人１組のグループで共有。「汎ゲルマン主義って何？」「普墺戦争が起きた理由は？」などと、問いかけ合い、生徒は分からない点を教科書や資料で調べた。

9:16 チャレンジ③のルーブリックを説明 3



前田先生は、チャレンジ②で整理した欧州列強諸国の国際関係を地図上に図示するチャレンジ③の課題について説明し、５段階の尺度のルーブリックをスクリーンに映した。そして、「Ｂ基準まで到達できるように、グループで協力して取り組みましょう」と、生徒に呼びかけた。

本時のキー課題

9:20 国際関係を図示 5

国のカードを線で結んだり、囲んだりして、三国同盟・三国協商などの構図を示した。関係のある国を同じ色で囲んだり、国同士を結ぶ線の色を関係性の違いによって分けたりと、どのグループも、国の関係性が視覚的に分かりやすくなるよう、工夫していた。

9:31 ほかのグループの地図を共有 6

前田先生は、生徒が完成させた地図を撮影してスクリーンに映し、「欧州列強諸国に、日本はどのようにかかわったのかを調べてみよう」と、次なる問いを投げかけた。その後、完成した地図を各自がワークシートに整理したところで授業の終了時刻を迎えたため、本時の振り返りは次時に行うことにした。

●私が目指す授業

歴史の流れや出来事の要因をつかむ、生徒主体の授業

前任の公立中学校では、高校入試を意識するあまり、知識を教え込む講義形式の授業をしがちでした。本校に赴任し、学習が苦手な生徒を目のあたりにしたことで、これまで目を配れていなかった生徒がいたことに気づかされました。

本校の生徒の大半は、卒業後、専門学校に進学したり、就職したりします。そのため、授業と進路が直結しないと捉えている生徒が少なくなく、そうした生徒が歴史を学ぶ意義を感じ、主体的に学習に向かえるよう、授業を工夫しています。

具体的には、生徒主体の活動を授業の中心に据え、教師の講義は全体の３～４割程度にしています。そして、歴史の面白さや魅力が伝わるよう、歴史用語や年号などの知識を教えることよりも、歴史の流れをつかみ、出来事の原因を理解できるようになることを重視しています。私が話す内容はシンプルにし、生徒が理解しやすい表現を心がけ、教科書で太字になっている語句は、歴史の流

れや転換点に欠かせないものだけを扱うようにしています。

●私の発問・課題設定の観点

歴史の「if」に切り込み、未来につながる力を育む

授業では、毎時間1枚のワークシートに取り組ませます。授業の流れや手順が決まっていると、生徒は安心し、活動に集中できるので、ワークシートの構成（図1）は毎時間ほぼ同じです。

ワークシートは、「生徒の活動量を多くすること」「1人で取り組めること」「少しだけ背伸びをさせること」に留意して作成しています。中でも重視しているのが「少しだけ背伸びをさせること」で、ワークシートの「チャレンジ」が、それに該当します。例えば、アヘン戦争を描いた絵画を見て、そこに描かれている船が清国の船かイギリスの船かを、根拠を示して答える問題や、ロシアが南下政策を採った理由を、地理や気候条件を基に説明する問題など、グループで考えたり、教師がヒントを出したりすれば解答できる問題です。そうした問題に正解することで、生徒が「やればできる」と感じ、学習に前向きになることをねらいとしています。

「アジア・太平洋戦争は、どうすれば避けられたか」など、あえて歴史の「if」に切り込む問いかけをすることもあります。同じことを繰り返さないためには何が必要か、自分ならどのように行動したかなどを考えさせることは、よりよい未来を築く力を育む、歴史の授業の大切な役割だと捉えています。

本時の「チャレンジ③」は、1学期に学習した欧州列強諸国の歴史と、中学校での既習事項である三国同盟・三国協商を踏まえて、ドイツとロシア・フランスが対立した要因を考察する問題にしました。本校の生徒の多くは、情報を整理して再構築する力に課題があります。既習事項を思い出して整理し、地図に図示する活動（図2）は、生徒に少しだけ背伸びをさせることになります。

まとめとして行う「R80（エイティ）」は、茨城県立並木中等教育学校が開発した方法（＊1）で、学習内容のまとめの文章を、接続詞でつないだ2文で書くという課題です。年度当初は、私が授業の冒頭で解説する「今日の歴史が動いたポイント」を80字にまとめるところから始めます。そして、徐々に私の解説を簡略化し、生徒が必要なことを自分で考え、補足しながら書くようにしていきます。

評価は観点別に行い、特に「関心・意欲・態度」は、毎時間、全校共通のルーブリックで評価します（＊2）。毎時間評価するのは、授業の1時間1時間を大切にする意識を育むためです。

その他の観点は、パフォーマンス課題や定期考査、ワークシートなどで評価します。本時の「チャレンジ③」のようなパフォーマンス課題では、課題の内容に応じて評価の観点を設定したルーブリックを作成し、それを課題に取り組ませる前に生徒に示しています。定期考査では、歴

図1　ワークシートの構成

❶今日の歴史が動いたポイント	最低限押さえるべきポイントについて、教師の解説を書き写す。
❷今日のストーリー	文章の空欄にあてはまる語句を、教科書から読み取って書き込み、歴史の流れを確認する。
❸チャレンジ	自分の考えを書いたり、難易度の高い問いに取り組んだりする。
❹R80	本時の学習内容を80字でまとめる。

※前田先生提供資料を基に編集部で作成。本時のワークシートは③④のみ。

図2　ワークシート　チャレンジ③

★チャレンジ③　～地図にまとめよう～
Step 1　グループで出し合った国同士の対立関係を、ボード上の白地図にまとめなさい。
・国カード、国際関係カードを使って、地図上に並べて使うこと。
・国カード同士を線で結んだり、色を変えたりして、ほかの人にも分かりやすく！
・友好・対立の理由や重要語句（太字、たとえば同盟の名前など）も書き込むこと！
Step 2　班で作ったボードを、自分のワークシートにも同じようにメモを取っておきましょう。
Step 3　ほかの班のものにあって、自分の班にないものをメモしましょう。
注意！　地図の国境線は現在のもの
マトメのR80
今回はねらいではなく、次のテーマに沿って、2文で80字、間に接続詞を入れてまとめましょう。
今回のテーマ『列強諸国は、なぜ、どのような構図で対立していたのだろうか。』
評価
20
40
60
80

※学校資料をそのまま掲載。

＊1　Rはリフレクション（振り返り）、リストラクチャー（再構築）を指す。生徒がペアやグループで話し合った内容を80字でまとめる活動であり、必ず2文で構成し、接続詞でつなげるのがルール。詳しくは、『VIEW21』高校版 2018年12月号 P.28-31参照。　＊2　同校の学習評価の実践は、『VIEW21』高校版 2020年10月号 P.46-49参照。

史用語などの知識は選択式問題とし、出来事の原因などを記述させる問題に重点を置いています。また、設問ごとに評価の観点を明記しています。

●成果と展望

難しい問題でも、自分なりに考えるように

本校に赴任して5年目となり、生徒主体の授業が実現しつつあると、手応えを感じています。以前は、生徒のワークシートには無解答が目立ちましたが、今は、多くの生徒がすべての問題に対して解答しています。背伸びをさせる問題も、すぐに諦めず、自分なりに答えを出そうと考える姿勢が身につきつつあると感じています。生徒の授業アンケートの結果では、「自分の考えを書いたり話したりする場面があるか」「授業は分かりやすいか」の肯定率（「とてもそう思う」「そう思う」の合計）は、どちらも高い結果でした。

今後の課題は、どの生徒も前向きに学べる授業デザインの構築です。世界史が得意でも苦手でも、主体的に取り組める授業を、これからも追究していきます。

単元の指導計画

【教科・科目】地理歴史・世界史Ａ **【分野・単元】**帝国主義と第一次世界大戦 **【テーマ・作品】**ヨーロッパの国際関係の緊張
【設定時数】全７時間（本時は２時間目）**【単元目標】**帝国主義の潮流が、どのように第一次世界大戦に向かっていったかを理解する。また、第一次世界大戦がその後の世界にどのような影響を与えたのかを理解する。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	• 急変する社会と、帝国主義の潮流	19 世紀の社会の変容を、国際化・国民意識の高まり・帝国主義の３点で捉えることができる。【知識】	① 19 世紀の世界がどのように変化していったのか、そのプラスの面とマイナスの面を考え、教科書から該当する部分を探し、理解する。 ②各国の国民がいかに国民意識を獲得していったのかを、資料を基に考える。 ③帝国主義の潮流がどのように世界に広がっていったのか、風刺画を基に理解する。	【主体的な学び】教科書から読み取れる内容をワークシートに構造化してまとめさせることで、自分の頑張りでワークシートが埋まっていく実感を持たせられるようにする。	• ワークシート • 授業中の様子
2	• ヨーロッパの国際関係の緊張 ①列強諸国の対立と同盟	既習事項を活用しながら、第一次世界大戦前の国際関係について、言語化・図示できる。【思考力、表現力、主体性、協働性】	①第一次世界大戦前の国際関係を、ドイツを中心に、既習事項を基に考える。 ②①で考えたことを地図上に落とし込み、地政学的な理解の下に、対立の原因を考察する。	【主体的な学び】既習事項を生かして理解を深められるよう、ワークシートを工夫する。 【対話的な学び】学習の理解度が異なる生徒同士で助け合い、最低限理解すべきラインに到達できるようにする。 【深い学び】発展的な内容として、地政学的な観点などを踏まえた理解ができるような発問をする。	• ワークシート • 授業中の様子
6	• ロシア革命と社会主義国家の成立	ロシア革命が画期的だった理由と、列強諸国が社会主義革命に反発した理由を、風刺画から読み取り、考察できる。【思考力】	①ロシアで起こった革命の経緯を、教科書で確認する。 ②社会主義国家が成立したことが、他国にどのような衝撃を与えたのか、風刺画から読み取る。	【対話的な学び】風刺画から読み取った内容をグループ内で共有し、複数のポイントを有する風刺画について理解する助けになるようにする。 【深い学び】ソ連の成立を単なる歴史的事象として終わらせず、他国への影響を考えさせることで、学習に深まりを持たせる。	• ワークシート • 授業中の様子
7	• ヴェルサイユ体制と国際連盟	第一次世界大戦後に成立したヴェルサイユ体制の問題点を、風刺画から読み取り、考察できる。【技能、思考力】	①ヴェルサイユ体制とワシントン体制がどのように成立したか、教科書で確認する。 ②ヴェルサイユ体制に内在されていた問題を、風刺画から読み取り、考察する。 ③②の問題が現代の課題に通じる点を考察する。	【対話的な学び】英字を含む風刺画の読み取りをグループで行い、生徒が学び合う場を設ける。 【深い学び】ヴェルサイユ体制と現代の課題を比較し、考察することで、理解を深められるようにする。	

※前田先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。